

タイの教育・学校事情⁽¹⁾ ——留学経験から語る——

鈴木 佑 記

目 次

- 1 はじめに
- 2 タイの教育制度
- 3 タイの学校にまつわる話
- 4 留学経験談
- 5 おわりに

1 はじめに

2021年3月に独立行政法人日本学生支援機構が発表した「2019（令和元）年度 日本人学生留学状況調査結果」によると、同年度に海外の大学等へ留学した日本人学生は107,346人である⁽²⁾。この数値は、日本国内の大学等の機関と海外の大学等の機関との間で交わされる、学生交流に関する協定等に基づいて、教育または研究を目的として海外へ渡った日本人の学生数を反映したものである。そのため、日本人学生が在籍校の制度を利用しない、あるいは届出を出さない等の理由で大学等の機関が把握していないような「留学」は、この数には含まれないことになる。そうではあるが、2009年度の日本人留学生が36,302人であったことを考えると⁽³⁾、10年間で約3倍増加しており、日本の大学が海外の大学との交流を活性化させ、留学経験をする日本人学生が増えてきたことを確認できる。

しかし2020年度は、海外留学する日本人学生は減少に転じたとみられる。その原因は新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大にある。日本学生支

援機構による、日本人の留学状況の調査報告がまとめられるのは2022年に入ってからなので正確な数値はわからないが、コロナ禍を理由に留学を延期ないし中止した大学生の報道が多くなされており⁽⁴⁾、大幅に減ったことは間違いないだろう。筆者が国土舘大学で担当するゼミナールの中にも、イギリスへの留学を延期したまま1年半が経とうとする学生がいる。2021年度の秋期（後期）に入り、海外留学への道が再び開かれる兆しもみられるが⁽⁵⁾、留学できる環境が万全に整ったとはまだいえない。

本報告では、筆者が留学経験のある東南アジアのタイを事例に取り上げる。タイの教育制度とタイの学校にまつわる話を紹介し、国土舘大学生が他国の教育・学校事情を自国のそれと比較しつつ理解できるようになることを第1の目的とする。そして筆者の留学経験を共有することで、コロナ禍であっても学生たちが留学への関心を高め、海外に目をむけられるように促すことが第2の目的である。以下、「2. タイの教育制度」、「3. タイの学校にまつわる話」、「4. 留学経験談」の順で論じ、最後に「5. おわりに」で筆者の考えを、国土舘大学生へのメッセージとして述べたい。

2 タイの教育制度

タイの学校制度は日本のそれと似ている。就学前教育として幼稚園が存在し、6年間教育の小学校、3年間教育の中学校、3年間教育の高等学校、それに4年間教育の大学が置かれている。なお小学校が初等教育機関として、中学校が前期中等教育機関として、高等学校が後期中等教育機関として、大学が高等教育機関として位置づけられている。このうち小学校と中学校の計9年間は義務教育期間として国家教育法（1999年）によって定められている。日本と大きく異なるのは、行政による学校の設置・管理等のあり方である。日本の場合は学校の種類に応じて国レベル、都道府県レベル、市町村レベルで管理・設置等を行っているのに対し、タイの場合は教育省が国レベルでほぼ一元的に管理・設置等（私立学校に関しては認可）を行っている⁽⁶⁾。

タイの学校制度で特徴的なことの一つに、9年間の義務教育を終えたあと、高校に進学する以外にも専門学校コースと呼びうる選択肢がある点にある。職業学校、または軍・警察学校へ進学するというものである。職業学校では電気、機械、会計、被服、料理、マーケティングなどを専攻することができる。日本の高等専門学校（いわゆる高専）の場合は工学、技術、商船系の専攻を5年（商船は5年6か月）で学ぶが、タイの職業学校は3年の修学期間である。職業学校を卒業した後は、そのまま専攻の学問と技術を学ぶために職業・技術学校と呼ばれる高等教育機関を受験できるし、一般の大学を受験することもできる。

タイでは教育省が中心となって学校を管理していると前述したが、2016年の時点で教育省高等教育委員会（Office of the Higher Education Commission）が所管する大学等は、国立大学81校、コミュニティカレッジ20校、私立大学73校の計174校である⁽⁷⁾。国立大学の内訳は、総合大学が33校、地域総合大学が37校、ラチャモンコン工科大学が9校、無試験で入れるオープン大学が2校となっている。地域総合大学とは、もともとは教員養成大学として全国に設置されていた師範学校だったが、1995年に教育学部以外の学部を擁する総合大学へと転換し、名称が変更されたものである。ラチャモンコン工科大学とは、全国に39校あった職業技術学校を9校へと統合し、名称が変更されたものである⁽⁸⁾。オープン大学は、放送・通信技術を取り入れることで、社会人等にひろく高等教育機会を拡大する目的でつくられたものである。日本の放送大学の立ち位置に近い。

オープン大学には1971年に設立されたラムカムヘン大学と1978年に設立されたスコートイ・タマティラート大学の2校が存在する⁽⁹⁾。ラムカムヘン大学はバンコク都内にキャンパスを構える。テレビ放送を一部取り入れながら、大規模教室での講義を行っているが、出席義務はない。スコートイ・タマティラート大学はキャンパスのない完全なる放送大学である。1984年に本部キャンパスを持つことになるが、1978年当時にキャンパスを持たずに遠隔教授・学習のみで成立した大学は、スコートイ・タマティラート大学が東南アジアで初めてである⁽¹⁰⁾。学習形態は長年、教材を手元にテレビ・ラジオ番組を視聴

するという自宅学習を基本としていた。2012年には専用局を開設して24時間の放送を学生のみならず一般市民へも提供している。またコンピュータベースのeラーニングにも力を入れており、2018年の時点で携帯機器を使った教材、モバイル・ラーニングの開発がすすめられている⁽¹¹⁾。いずれの大学でも入学試験は設けられていない。入学者の傾向として、ラムカムヘン大学を選ぶのはバンコクとその近郊に住んでいる二十歳前後のフルタイム学生が多く、他方スコタイ・タマティラート大学を選ぶのは地方在住者で昼間は働いている20代前半の社会人が多いという特徴がある⁽¹²⁾。

3 タイの学校にまつわる話

近年、日本でも英語教育が重視されてきているが、タイは比較的早い段階から英語教育の熱が高かった。日本の小学校で英語が必修化されたのが2020年であるのに対し、タイでは1996年に必修化されている。タイの小学校で英語教育が開始されたのは、「特別経験活動」の選択科目として1992年に設けられてからである。これは、小学校5年生と6年生の児童に対し、1学年につき200時間の「特別経験活動」を課すというもので、そのなかに英語学習が配置されたものである。その後タイ政府は、英語を初等教育で学ぶ必要性を認識し、1995年に外国語教育奨励策を内閣で承認し、1996年からは小学校1年生2学期から英語を必修教科とするようになった⁽¹³⁾。ただし、小学校1年生から英語の勉強を始めるのは私立の小学校であり、公立の場合は小学校5年生からとなる⁽¹⁴⁾。

2001年10月15日号の日本語フリーペーパー誌『Viang Chiangmai』の「あり & うにのだって知りたいんだもん!!」という記事では、タイの学校制度について書かれており、そのなかで「タイでは幼稚園から宿題があります・・・中略・・・英語教育は幼稚園からはじまります。幼稚園は義務教育ではありませんが・・・中略・・・、幼稚園へ行かないと小学校の授業についていけないというのが、本当のところのようです」という記述がある⁽¹⁵⁾。タイでは2000

年代初めにすでに、小学校における英語教育の必修化に備えて幼稚園での英語教育が根付きつつあったことを示唆するものである。

ところで、話題を変えてタイ人の大学生事情について紹介したい。日本人学生が聞いて驚くことの一つに、タイ人学生の多くは在学中にアルバイトをしないということが挙げられる⁽¹⁶⁾。その理由は、アルバイトで得られる賃金がタイの生活水準に照らしてかなり低く抑えられている点を指摘できる。たとえば、タイの首都バンコクで世界的に有名なファストフードチェーン店やコンビニエンスストアでアルバイトしても、時給は45 バーツ程度である(2017年から2019年にかけての情報)⁽¹⁷⁾。日本円にして約150円である(2021年10月24日現在の為替レートを参照)。東京都23区内であれば1000円程度(2021年10月より東京都の最低賃金は1041円)を稼げるのに対し、かなり低い賃金設定である。もちろん、両国間の国民の所得格差も考慮すべきであるが、それでもタイの物価が著しく低いわけではない⁽¹⁸⁾。

筆者が留学中にタイ人の友人から聞かされたのは、「大学生のうちは稼ぎの悪いアルバイトをするくらいなら、学業に打ちこむべき」、「大学生のうちは親の仕送りで生活させてもらい、卒業後よりよい企業に就職して親に(金銭も恩も)返すものだ」というような語りであった。神田外語大学教員のポンシー・ライト先生が「タイでは、学費も生活費も親に出してもらい勉強に専念するのが普通です。そのために、親の方は無理してでも教育費を捻出します」と大学ホームページで述べているが⁽¹⁹⁾、筆者が実際に聞いたタイ人大学生の声と重なる。日本の大学生が複数のアルバイトを掛け持ちするのが珍しくなくなっている昨今、タイのこうした事情は彼らの目に少し奇異に映るかもしれない⁽²⁰⁾。

その他にも、日本人学生が興味を示しそうなことの一つにタイの制服事情がある。タイで長年発行され続けている、最も有名な日本語フリーペーパーの一つであるDACOでは、「日本人留学生 & 講師によるタイの大学レポート」という特集が2001年に組まれている。そこには、「街行く大学生の校名が5秒でわかる? 校章・制服」という見開き2頁の記事があり、次のような記述がみられる。

タイの大学生の制服の基本は、白いシャツと黒のボトム。デザイン的に細かい規制がないので、皆、ひいきの仕立て屋でスカートの丈や長さ、フィット感を自由にオーダーして着こなします⁽²¹⁾。

多くの日本人にとって、大学にも制服があることは驚くことかもしれない。日本の学校で制服というと、幼稚園から高校までの間に指定されているものと認識する人が多いのではないだろうか。ことに大学に関しては制服を指定する学校は稀である。もちろん、初等教育から中等教育にかけて制服が指定されていない学校もないわけではないが、少数である。筆者も留学した当初は、タイ人大学生の服装を見て不思議に感じたものであった。大学のキャンパスに入ると、皆が白いシャツを着ており、男性は黒パンツ、女性は黒スカートを身につけているのである。

ただし、留学生活を送っていく中で、そうした服装にも微妙な変化があることに気づいた。それは、学年が上になるほど服装の自由度が増すという点である。大学4年生になると、黒パンツでもジーンズ素材のものを履く者がいたり、黒スカートでもボディコン風の短いものを履く者がいたりすることを察知したのであった。そういう意味では、「皆、ひいきの仕立て屋でスカートの丈や長さ、フィット感を自由にオーダーして着こなします」という上述の内容は、高学年の大学生に当てはまるといえる。筆者が留学中に接した大学1年生のタイ人女性には、先輩から咎められることを恐れて、「正統」で「真面目」な白シャツと黒ボトムに身を包んでいた。

日本の大学生が着る服に流行があるように、タイの大学生の制服にも時代によって人気のある着こなし方が変わる。白シャツと黒ボトムという基底の型に変更はないものの、生地や大きさにその時の大衆の好みが反映されてくる。特に女性の服装は変化が読み取りやすい。そうとはいえ、制服の歴史は古く遡れば遡るほど大学によって異なってくるため、ここではタイで初めて設置された大学、国土舘大学と創設年（1917年）が同じチュラーロンコーン大学を例に紹介する。

チュラーロンコーン大学のホームページには、「大学のアイデンティティ学生服、陛下より賜った制服 (อัตลักษณ์มหาวิทยาลัยชุดนิสิต เครื่องแบบพระราชทาน)」というページの中に、「女学生の制服の歴史 (ประวัติเครื่องแบบนิสิตหญิง)」という項目がある⁽²²⁾。それによると、4つの時期に区分できるという。チュラーロンコーン大学が女学生を初めて受け入れた1934年から1938年9月15日までを第1期、制服の規定を設けた1938年9月16日から1964年2月16日までを第2期、新たに制服に関する大学発令を行った1964年2月17日から1980年代までを第3期、そして現在を含めた1990年代以降の時期が第4期である。

第1期では、女性は手首まで届く白い長袖シャツと青色のパートゥンと呼ばれる腰巻、それに黒色の靴を身につけていた。第2期になると、重要行事等のある特別な日に着用すべき制服と通常時に身につける制服とが別々に定められていた。通常時は、ボトムは腰巻で、色は黒色または濃紺色といった地味な色、丈の長さは足首と膝の間と細かく決められていた。第3期の服装の内容については一切記述がないが、この時期は第2期の規定に細かい規定が加わった時期で、第4期の服装のあり方につながったようである。現在は黒色ないし濃紺色のスカート——1年生はプリーツスカート、2から4年生はタイトスカート——で、白シャツと決められている。スカートには細則があり、光沢も模様も柄もないものであり、ジーンズやジャージ、それにレース生地が禁じられている。また膝を隠すように指示されているが、高学年になるほど守られていないというのが個人的な印象である。それを裏付けるように、2002年1月27日のコム・チャット・ルック紙では、「女子大学生 パツパツ世代」と題された記事が一面分飾っており、そこでは身体のラインを強調する小さめの白シャツとスリットの入った短い黒スカートを着ることが流行していると伝えている⁽²³⁾。近年は、制服の上からオーバーサイズのジーンズジャケットを羽織ったり、薄手のセーターを着てみたり、帽子を被ったりするのも、一部の学生の間ではお洒落な制服スタイルとして認識されるようになっている⁽²⁴⁾。

大学在学中の就職活動についても、日本とタイでは事情が大きく異なる。日本では通常、学生が就職活動を始めるのは卒業の約1年前、大学3年生から4

年生に上がる時期からである。企業が説明会を開催できるのが3月1日からというルールがあり、その日を転換点として大学3年生が就職先を真剣に考えだすわけである。企業による採用面接などの選考が解禁されるのが6月1日からであり、この頃より4年生は大学に通えない日が出てくる。10月1日から正式な内定通知がなされ、その後は内定者面談や懇親会等への参加をする学生がちらほら見られる。日本の大学生にとって卒業年次は、就職活動に割く時間が長いのである。その一方でタイの大学生が就職活動をする期間は短い。卒業前の3週間程度の時間の中で、学生たちは自らの就職先を探す。そのため卒業年次であっても、日本の大学生に比べると、タイの大学生の方が就職活動ではなく勉強により専念できる傾向にある⁽²⁵⁾。

4 留学経験談

筆者がタイに初めて長期滞在したのは2001年のことである。その後もタイには調査のため断続的に通い続け、2006年1月から2010年3月までを前節で紹介したチュラーロンコーン大学の研究所に所属しながらほとんどの期間をタイで過ごした⁽²⁶⁾。そして2019年まで毎年タイで調査を続けてきた。新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起きる2020年から訪問できていないが、この約20年間で50回以上日本とタイの間を飛行機で往復してきた。タイで過ごした時間を総計すると5年ほどになる。大学に職を得る以前のタイ訪問を留学と捉えては、あまりにも長大な時間になってしまう。そこでここでは便宜的に、一度の訪問で現地に約1年間滞在したもののみを留学として扱いたい。その定義に従うならば、筆者の留学は2001年4月7日から2002年3月29日までの間、そして2006年1月15日から2007年1月14日までの間の計2回となる。前者は語学留学、後者は「研究留学」とでも呼びうるものであった。ここでは、語学留学の経験談のみ紹介したいと思う。

2001年4月からの一年間、筆者は泰日経済技術振興協会（Technology Promotion Association [Thailand-Japan], TPA）に附属する語学学校に通った。

通称はタイ語の頭文字をとってソーソーとと呼ばれる。泰日経済技術振興協会が設立されたのは1973年のことである。日本の最新技術と知識等をタイへ導入し、人材育成を行うことでタイの経済産業を発展させることを目的としている。技術・管理セミナー研修を開催することから技術専門書等の出版、さらにコンサルティングから工業計測機器・医療機器・実験器具の校正と検査を行うまで、幅広いサービスを提供している。語学学校は、そうしたタイの経済産業発展の手立ての一つとして設けられたものである⁽²⁷⁾。もともとはタイ人に日本語を教授する語学学校であった。

日本人を対象としたタイ語コースは大きく三つに分けられる。主に駐在員家族(成年女性が多い)が通う、タイ語初級・中級会話とタイ文字を学べる一般コース、主に駐在員(成年男性が多い)が通う、ビジネスタイ語会話(初級・中級)を学べる社会人向けコース、平日の朝から夕方まで毎日じっくりと学ぶタイ語留学一年コースの三つである。その他、短期集中型の教室や個人的な指導を受ける家庭教師型の学び方もあるが、概して一般コース、社会人向けコース、タイ語留学一年コースのいずれかを選ぶかたちになっている。筆者が受講したのはタイ語留学一年コースである。1998年に開設されたコースであり、筆者は第4期生ということになる。

筆者の手元に「泰日経済技術振興協会(TPA) 附属語学学校タイ語留学一年コース 2002年度募集要項」のパンフレットがある⁽²⁸⁾。これは2001年に作成・頒布されたものである。筆者が語学留学してからすでに20年の歳月が流れているので記憶が鮮明ではない。このパンフレットをもとに、留学時代にあった出来事を思い起こしてみたい。次に提示する情報はパンフレットに書かれている文言を一部抜粋し、筆者が番号を振ったものである。

- (1) 一年間、週25時間(月～金、9:00～15:30)授業で、まったくの初歩から実用能力養成までのタイ語と、それを支えるタイ事情を学びます。
- (2) 授業以外に体験ボランティアやホームステイ、研修旅行に日本語コース学生との交流など、TPAならではの多彩なプログラムでタイ語はもち

ろん、タイへの理解をより深いものにします。

- (3) 覚えたことをすぐに実践できる現地での学習は、語学習得において想像以上の効果を上げることが可能です。
- (4) 将来日本とタイの架け橋となれる人材を育成することを目標に授業を行っています。

まず(1)をもとに、留学当時の一日の生活を思い起こしてみたい。筆者が住んでいたのは、バンコクの中でも特に日本人が集住するプロンポーン駅近くにある巨大なアパート——スクムヴィット・ソイ 41にある River Court ——の一室であった。不動産業者を介さず、安そうな——外装がくたびれたともいう——建物を見つけると、飛び込みでいくつかのオフィスに入っては値段交渉をした。その中で最も安くて生活に便利そうなのがそのアパートであった。TPA までは徒歩 15 分ほどのところに位置していた。朝 7 時に起きてシャワーを浴びる。その日の授業の予習をしてから 8 時過ぎに家を出て、通学途中の歩道上に出店しているカーオトム（日本風のお粥）屋台やジョーク（広東式粥）屋台で朝食をとる。時間に余裕のない日は、セブンイレブンで年中売られているサラパオ（中華まん）を購入して学校で食した。8 時 50 分頃に学校へ着き、9 時から 12 時過ぎまで授業を受ける。学校近くの食堂では毎日のようにカーオ・ラート・バット・キン・ガイ（鶏生姜炒めのご飯がけ）を昼食とした。13 時から 15 時半まで授業を受けた後は、図書室で友人たちと復習と宿題をこなす。タイ語講師による特別授業が開催されることもあった。18 時を過ぎたら TPA を出て、家路にあるインターネットカフェに入り、日本にいる家族や友人とメールのやり取りをする。30 分ほどで店を出た後は、歩道に並ぶ屋台の中からその日の夕飯を購入する。帰宅後はシャワーを浴びて夕食をとる。その後は 23 時頃まで宿題をこなす。以上が典型的な授業日の過ごし方であるが、18 時以降は、友人と夜のバンコクを散策したり屋台をはしごしながら飲み歩いたりする日もあったことを正直に付け加えておく。

- (2) に関しては、実施した正確な月日は思い出せないものの、どのイベント

も強く印象に残っている。体験ボランティアでは、特定非営利活動法人神奈川海外ボランティア歯科医療団 (KADVO) のフリーデンタル・クリニックという活動に随行し、口腔チェックや虫歯治療時の日本語とタイ語の通訳を行った。KADVO のホームページによると、2001 年 9 月 15 日から 20 日にかけて、バンコク市バクレット町バクレット障害者・児童施設、コンケン県バンバイ市ノンソンホン郡バンスパチャイ小学校で活動を実施したようである。この時の実行委員長が平田宗善氏で、日本側の参加人数は 53 名、その中の一人として筆者も参加していた。対応した患者数は 1319 名であったという⁽²⁹⁾。記憶が曖昧だが、この時はバスを複数台貸し切ってフォーウィングスホテルを出発し (The Four Wings Hotel, 1993 年開業⁽³⁰⁾)、一路北上して東北地方にあるコンケン県へ向かった。タイ語を学び始めて半年が過ぎようとしていた時で、まだ拙いながらも言語を介して日本人とタイ人を結びつけることができた経験は、その後のタイ語を学ぶ意欲を増大させるのに十分であった。

タイ人の家庭にホームステイしたことも良い思い出である。記憶が確かならば、2001 年 8 月に 3 泊 4 日でホームステイをした。TPA がタイ語留学一年コースを受講する日本人学生に対してホームステイ先を紹介してくれるもので、私は同協会の事務所で働く女性のお宅にお邪魔することになった。彼女は華人系タイ人で、フアランポーン駅とヤワラート中華街の間に住んでいた。シンガポールやマレーシア・ベナン島などでもみられる、東南アジアの華人系住民が暮らすことの多いショップハウスを家としていた。

ショップハウスとは、中国語の「店屋」の英訳であり、東南アジアの中華街を中心に多くみられる店舗併用住宅のことである⁽³¹⁾。間仕切り壁で連棟された建物で、2 階から 5 階建てのものがみられる。通常は 1 階に店が入り、その上階が住居として利用されている。安藤徹哉⁽³²⁾によると、「ショップハウスの平面形状は間口 4 メートル、奥行 12 メートル前後の短冊型であり、これが隣家と戸境壁を共有しながら長屋式に連続していく。ショップハウス一棟あたりの住戸数は敷地の状況に応じて様々だが、現行のバンコクの建設条例では防災上の見地から最大 20 戸までに定められている」。一つの壁が共有されて連棟

されているため、あたかも複数の世帯が一戸の巨大な建物に縦割りで分割されて暮らしているようにも見える。

私がホームステイしたショッピングハウスは、1階が雑貨屋、2階がリビング、3階と4階が寝室となっていた。そこに一泊した後、彼女の兄弟と共に、彼女の母の従妹の別荘に二泊した。その別荘はバンコク郊外にあり、日中は彼女らと一緒に寺院巡りをするなどして過ごした。その頃の筆者はタイ語を学び始めてからまだ4か月程度だったということもあり、彼女とその家族・親族が話すタイ語の内容をほとんど理解できなかったが、日常生活で使用される「タイ語のシャワー」を四六時中浴びるという貴重な経験を持つことができた。理解困難な言語環境下に身を置くことで、悩みそが溶けるのではないかと感じるほどの強度のストレスを感じたことを正直に吐露しておこう。しかしそれ以上に、初めてタイ人の生活を間近で垣間見れたことに感激し、ひどく興奮したことを覚えている。TPAパンフレットの(3)にある文言に偽りはなかった。

その他にも、ラーマ9世が創始した王室プロジェクト⁽³³⁾が運営する工場へ見学に出かけたり、タイの伝統的家屋を観て回ったり、語学学校で日本語を学ぶタイ人たちと交流したりするなどして、タイ語留学一年コースのプログラムを大いに満喫した。この間に知り合ったタイ人の友人の一部は、その後も筆者がタイに滞在するときや彼らが日本に滞在する時などに再会して、現在でも交流が続いている。TPAパンフレットの(4)に書かれていた「日本とタイの架け橋となれる人材」に筆者が育ったのかどうかは、コース終了から20年経った今も不確かではあるが、少なくとも今でもタイとのつながりを持ち、関係性を深めることができているのは、あの留学経験があったからだと確信している。

5 おわりに

本報告ではまず、タイの教育制度に触れた。タイの学校制度は「6-3-3-4制」とっており、義務教育の期間も日本と同じである一方、学校の管理のあり方はタイの方が行政色は強く、義務教育後の進路のあり方は日本とは異なること

を紹介した。タイの学校にまつわる話では、日本人の大学生が驚きそうな事柄を意識的に取り上げた。具体的には、タイにおける英語教育の先進性、タイ人大学生のアルバイト、制服、就職活動事情についてである。そして筆者が経験した留学体験を記した。今回のシンポジウムを契機に、記憶の深層に眠っていた当時の情景を掘り起こしてみると、すでに20年前の出来事ではあるが今でもありありと眼前に浮かび上がってくるかのようである。それだけ筆者にとって、若い時に体験した留学生活は新鮮でその後の人生に影響を与えているのだろう。これまでの半生を振り返ってみると、現在の自我を構成するうえで重要な時間だったとつくづく思う。

国土館大学生には、コロナの状況が落ち着いたら、ぜひとも留学にチャレンジしていただきたいと個人的には考えている。もちろん感染症以外にも、学生それぞれに事情があるので全員におすすめしようとは考えていない。今回のシンポジウムに登壇した先生方のお話を聞いて、もし少しでも留学に興味を抱いてくれたのなら本望である。そして短期間でも構わないので、海外に足を運ぼうとする学生が増えることを願っている。日本の当たり前がそこでは通用しない現実を直視し、それまでの凝り固まった思考をほぐす技法を体得してほしい。極めて私的な思い込みを述べさせてもらおうと、留学の醍醐味は勉強することにあるのではない。大事なのは、現地に暮らす人と接することにある。異国の地で何も知らない/出来ない経験をし、自らの能力の至らなさに気づき、カルチャーショックを受けて自分を見つめなおす点に醍醐味があるのではないだろうか。端的にいうならば、他者と出会い自己を相対化することである。その先に、一人の人間としての器を広げることができ、この世の多様性を受け入れる素地を身につけることができるのだと信じている。

幸いなことに、国土館大学には海外の協定校が多くある。学生は興味のある国や地域を、広い選択肢の中から選ぶことができる。ここではタイとの協定校の情報を載せておく【表1】。なお、国土館大学生が交換留学先として選べるのはチュラーロンコーン大学とチェンマイ大学である。偶然ではあるが、これらの大学が国土館大学と協定を結んだ年は、筆者が初めて留学した年と重なる。

この 20 年間における各大学との留学実績は、チュラーロンコーン大学へ留学した国土館大学生は 7 名、チュラーロンコーン大学から国土館大学に受け入れたタイ人が 12 名、チェンマイ大学へ留学した国土館大学生が 16 名、チェンマイ大学から国土館大学に受け入れたタイ人が 20 名となっている⁽³⁴⁾。

【表 1】 国土館大学と海外協定を結んでいるタイの大学等

大学名	都市名	備考	締約年月
チュラーロンコーン大学	バンコク	学術および交換留学協定	2001 年 2 月
チェンマイ大学	チェンマイ	学術および交換留学協定	2001 年 2 月
タイ国立救急医療センター	バンコク	部局間協定 (防災総研)	2015 年 3 月
ナワミントラティラート大学	バンコク	部局間協定 (防災総研)	2017 年 7 月

『海外留学ガイドブック 2021』参照，および国土館大学国際交流課への聞き取りから作成

留学に少しでも関心を持ったのなら、ぜひ本学国際交流センターに足を運んでほしい。熱心な職員が懇切丁寧に情報を提示し、アドバイスを与えてくれるはずである。また、コロナ禍で以前に比べると少なくなっているものの、本学には海外からの留学生も多く存在する。学内にいながら異文化に触れられる良い機会である。留学生と知り合えるプログラムも国際交流センターで用意されているので、日本人学生たちには積極的に活用してほしい。タイに興味を持った学生は、筆者の研究室をたずねてみるのもいいだろう。「日本とタイの架け橋」になるためにも大歓迎である。

注

- (1) 本稿は、2021年11月22日(月)に国土館大学世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎34号館B205教室で開催された、政治研究所主催シンポジウム「日韓中泰米の教育システム比較：アフターコロナを見据えて」(コーディネーター：齊藤良子先生)において発表した内容をまとめたものである。そのため、国土館大学在学学生に向けた主観的なメッセージ性の強い内容となっており、学術的意義の低い報告であることをあらかじめ断っておく。
- (2) 日本学生支援機構、2021「2019(令和元)年度 日本人学生留学状況調査結果」(https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2021/03/date2019n.pdf, 最終閲覧日:2021年10月24日)2019年4月から2020年3月までの間に、海外の大学等への留学を開始した日本人学生の数を示している。
- (3) 日本学生支援機構前掲書、3頁。
- (4) 例えば、京都新聞(2021/2/19)「夢だった留学延期、また延期『持って行き場のない思い』コロナ禍の大学生、想定外の1年」や週刊東京大学新聞第2923号(2020/4/21)「留学プログラム中止に、新型コロナ影響で」などがある。
- (5) NHK News Web(2021/9/21)「学生の海外留学 約1年半ぶりに本格再開 近畿大学」(<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210921/k10013270631000.html>, 最終閲覧日:2021年10月24日)によると、近畿大学は2021年9月より、在籍日本人学生のアメリカへの留学を本格的に再開させたという。
- (6) 久芳全晴、2019「教育」バンコク日本人商工会議所編『タイ国経済概況2018/2019年版』バンコク日本人商工会議所、35頁。
- (7) タイ教育省は2019年5月2日からタイ高等教育・科学研究・イノベーション省として再編された。タイ高等教育・科学研究・イノベーション省がホームページ上で公開している「高等教育政策」のデータによると、タイには全部で310の高等教育機関があるという。他にも、大学数は155校(<http://www.mua.go.th/university-2.html>, 最終閲覧日:2021年11月26日)というデータを見つけたが、他の数字を示すサイトが複数散見されて確信が持てないため、2016年時点の大学数を記した。なお、タイの大学では、1学期が5月中旬から9月下旬まで、2学期が11月上旬から3月上旬までの2学期制をとっている。
- (8) 久芳前掲書、39頁。
- (9) ただし、入学生を受け付け始めたのは1980年からのことである。
- (10) キース・ワトソン(大塚豊訳)、1993「タイ大学の発展：西洋モデルと伝統モデルの融合」馬越徹、大塚豊監訳『アジアの大学：従属から自立へ』玉川大学出版部、118頁。

- (11) 放送大学総務部総務課・国際連携係, 2019『スコータイ・タマティラート公開大学(STOU) 現状調査の報告』放送大学, 55 頁。
- (12) 鈴木潤子, 1995 年「タイ公開大学の機能分析: 学生のニーズ調査を通してみた」『比較教育学研究』第 21 号, 62-63 頁。
- (13) 鈴木康郎, 2005「タイにおける小学校英語教育の現状と課題」, 中央教育審議会初等中等 教育分科会教育課程部会外国語専門部会 (第 9 回) 参考資料 4-4「タイにおける小学校英語教育の現状と課題」暫定版, 2 頁。
- (14) Nattapong Kitsuwat (松浦基晴訳), 2019「タイ・日本・欧州における文化・教育・労働環境の違い」『電子情報通信学会誌』102 (9) : 854。
- (15) あり, 2001「あり & うにのだって知りたいだもん !!」『Viang Chiangmai』2001 年 10 月 15 日号。
- (16) この事について筆者が初めて耳にしたのは 2001 年のことである。当時通っていた語学学校の先生から聞かされた。そこで不思議に思い、同じ学校に通う日本語を学ぶタイ人の大学生たちにアルバイトをしているかどうかとずねると、そのほとんどの学生がアルバイトをしていないと答えた。また、2006 年から 5 年間、筆者が客員研究員として在籍していたチュラーロンコーン大学においても、同じ質問を投げかけたところ、やはりほとんどの学生がアルバイトをしていなかった。アルバイトをする学生は、時給の高い家庭教師の仕事をしていた。いわゆるコンビニエンスストアやファーストフード店でアルバイトをしている大学生に会わなかった。しかし、彼らは比較的裕福な家庭環境に育っていたことも関係していることを付記しておく。オープン大学やコミュニティカレッジに通う学生はアルバイトをしている割合が高いと思われる。
- (17) ファーストフードチェーン店の価格については、(平松隆円, 2017「被服行動の日タイ比較」『繊維製品消費科学』58 (6) : 517 頁) を参考にした。他にも、2019 年時点で、タイのセブンイレブンでアルバイトした場合、時給は 43 から 45 バーツだという情報も参考にした (<http://www.parttimepantip.com/7-11/>, 最終閲覧日: 2021 年 11 月 15 日)。同サイトによると、同じくセブンイレブンのアルバイトの日給が 345 から 365 バーツ、フルタイムで働いて月給が 11,000 バーツとなっている。なお、雇用対象は 17 歳以上に限定されている。
- (18) たとえばマクドナルドのいくつかの単品商品を、2021 年現在の価格で比較してみよう。なお、換算は 2021 年 11 月 20 日現在のレートで行った。ビッグマックは日本が 390 円でタイが 414 円、チーズバーガーは日本が 140 円でタイは 226 円、フィレオフィッシュは日本が 340 円でタイは 330 円、マックナゲット

は日本で5ピース200円なのに対しタイでは6ピース280円で販売されている。つまり、販売価格は日本と変わらないか、むしろ日本よりも高い値段で売られているにもかかわらず、時給は東京都働いた方がバンコクで働くよりも7倍近く(6.94倍)稼げる計算となる。国土舘大学世田谷キャンパスの最寄駅前にあるマクドナルドでは現在、1100円以上でアルバイトの募集がかかっているの
で、その場合は7倍以上(7.33倍)の開きがでる。

ちなみに大卒初任給の平均額はどうか。日本が22万6千円であるの
対し(厚生労働省, 2021『令和2年賃金構造基本統計調査の概況』厚生労働
省, 10頁。), タイは約73,000円(21,000バーツ)である([https://adecco.co.th/
th/knowledge-center/detail/salary-guide-2021](https://adecco.co.th/knowledge-center/detail/salary-guide-2021), 最終閲覧日: 2021年11月20日)。
約3倍の差である。要するに、タイでのアルバイトは、筆者が耳にしたように「稼
ぎの悪い」ものなのである。

- (19) 神田外語大学 HP「大学生活」(<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/essay/7729/>, 最
最終閲覧日: 2021年11月23日)

- (20) ただし、2021年現在の状況は変わっている可能性がある。あくまで留学中の
2001年から2002年、2006年から2010年までの期間に聞かされた話であるこ
とを断っておく。そうとはいえ、博報堂生活総合研究所アセアンが2019年11
月8日付で、ホームページ上に公開しているコラムにおいて、シニアストラテ
ジックプランニングスーパーバイザーのDeeさんというタイ人女性が「タイの
10代は、日本や他国のようにアルバイトをしないという大きな違いがありま
す。・・・中略・・・もちろん勉強が一番大事だと考えられていますが、一番
の原因は、子どもの時給が低すぎるためです。1時間働いても¥100程度にし
かないので、ある程度所得のある家の子どもは働きません。割に合わないの
です。働いていないと、新しいガジェットがでてきてもポケットマネーがない
ので買えません。親にお願いしようとする勉強しなさいと言われるのでそれ
も面倒くさい」と語っていることから、現在においても基本的な状況には変わ
りないと思われる。

博報堂生活総合研究所アセアン「コラム『メディアイノベーション調査2019』
からみる日本と各国の比較3後編: 博報堂生活総研アセアンDeeさん、伊藤さ
んと考える、日本とタイの比較」

([https://www.hakuhodody-media.co.jp/column_topics/column/media_environment/20
191108_26864.html](https://www.hakuhodody-media.co.jp/column_topics/column/media_environment/20191108_26864.html), 最終閲覧日: 2021年11月23日)

- (21) DACO編集部編, 2001『DACO』第66号(2001/2/5-3/5), 12-13頁。

- (22) チュラーロンコーン大学 HP「大学のアイデンティティ学生服、陛下より賜った制服」（タイ語）
(<https://www.chula.ac.th/about/symbols/uniform/>, 最終閲覧日:2021 年 10 月 25 日)
- (23) コム・チャット・ルック紙, 2002 年 1 月 27 日「女子大学生 パツパツ世代」6 頁。(タイ語)
- (24) 最近の制服の流行については、Youtube に投稿されている動画を参考にした。例えば, 2021 年 11 月 20 日現在, チャンネル登録者数 109 万人を抱える Gamgy Channel では, 2019 年 9 月 17 日の投稿動画内で女子学生の制服スタイルとして 7 通りの着こなし方を紹介している。
(<https://www.youtube.com/watch?v=WX2XWjbDI9Q>, 最終閲覧日:2021 年 11 月 20 日)
- (25) Nattapong Kitsuan (松浦基晴訳), 2019「タイ・日本・欧州における文化・教育・労働環境の違い」『電子情報通信学会誌』102 (9):855 頁。
- (26) 2006 年 1 月から 2010 年 3 月まで, バンコクにあるチュラーロンコーン大学の社会調査研究所に客員研究員として所属した。この期間を中心に実施したフィールドワークの成果は, 拙著『現代の〈漂海民〉:津波後を生きる海民モーケンの民族誌』(2016 年, めこん)として上梓している。国士舘大学図書館にも所蔵されているので, 興味のある学生はご覧いただきたい。筆者の「研究留学」の様子を伺い知ることができるだろう。
- (27) TPA, 2020『2020 年度版泰日経済技術振興協会ガイドブック』TPA, 2 頁。
(https://www.tpa.or.th/japanese/files/2020/TPA_Guide_Japan63_21-8-63.pdf, 最終閲覧日:2021 年 10 月 24 日)
- (28) TPA, 2001「泰日経済技術振興協会 (TPA) 附属語学学校タイ語留学一年コース 2002 年度募集要項」TPA。
- (29) KADVO ホームページ
(https://kadvo.com/report/1_03.html, 最終閲覧日:2021 年 10 月 26 日)
- (30) K&B パブリッシャーズ, 1998『エアリアガイド海外タイ』昭文社, 53 頁。
- (31) タイでショッピングハウスが増えたのは, タイ王室がそれまで独占してきた貿易体制を放棄することになった, イギリスとボウリング条約を締結した 1855 年以降のことである。大量のコメがバンコク経由で輸出されるようになり, 交易を担う労働者としてタイに移住した中国人がショッピングハウスをもたらした [布野他 2017:248-255]。
- (32) 安藤徹哉, 1992『都市に住む知恵:バンコクのショッピングハウス』丸善株式会社, 26 頁。

- (33) 現チャクリー（ラッタナコーシン）王朝第9代目の王様、プミポン・アドゥンラヤデート前国王が1969年に実施したプロジェクトである。もともとはタイ北部でケシ栽培をして生計を立てていた山地民の生活の質の向上を目指すために開始されたもので、山地民がケシ栽培をしなくても済むよう代替作物となるイチゴやコーヒーを栽培させるなどした。その後、地方の相対的な貧困地域を中心として地域住民に様々な作物を栽培させるなどして雇用を生み出し、加工品（たとえば果物のドライフルーツやジュース、乳牛を使用したラムネなど）を多く生産・販売している。それらの製品の詳細については、以下のサイトを参照されたい。

Royal Project Foundation Web ページ

<https://www.royalprojectthailand.com/product/>（最終閲覧日：2021年11月16日）

- (34) その他にも短期の交流の実績がある。筆者は2018年と2019年の夏に、国土館大学国際大学交流セミナーの支援制度を利用することで、自身のゼミナール生と加藤将貴ゼミナール生（経済学科）と合同でチェンマイ大学へ行き、現地の学生たちと交流を持った。その詳細については、本誌『政治研究』の第10号と第11号に「タイ・スタディツアー報告」と題して掲載している。

参考文献・引用文献

あり，2001「あり & うにのだって知りたいんだもん!!」『Viang Chiangmai』2001年10月15日号。

安藤徹哉，1992『都市に住む知恵：バンコクのショッピングハウス』丸善株式会社。

コム・チャット・ルック紙，2002/1/27「女子大学生 バツバツ世代」6頁。（タイ語）

DACO 編集部編，2001『DACO』第66号（2001/2/5-3/5），5-17頁。

久芳全晴，2019「教育」バンコク日本人商工会議所編『タイ国経済概況2018/2019年版』バンコク日本人商工会議所，35-55頁。

平松隆円，2017「被服行動の日タイ比較」『繊維製品消費科学』58（6）：512-517頁。

放送大学総務部総務課・国際連携係，2019『スコートイ・タマティラート公開大学（STOU）現状調査の報告』放送大学。

布野修司，田中麻里，チャンタニー・チランタナット，ナウィット・オンサワンチャイ，2017『東南アジアの住居：その起源・伝播・類型・変容』京都大学学術出版会。

K&B パブリッシャーズ，1998『エアリアガイド海外タイ』昭文社。

キース・ワトソン（大塚豊訳），1993「タイ大学の発展：西洋モデルと伝統モデルの融合」馬越徹，大塚豊監訳『アジアの大学：従属から自立へ』玉川大学出版部，91-134頁。

国土舘大学国際交流センター編，2021『海外留学ガイドブック 2021』国土舘大学国際交流センター。

厚生労働省，2021『令和2年賃金構造基本統計調査の概況』厚生労働省。

京都新聞，2021/2/19「夢だった留学延期，また延期『持って行き場のない思い』コロナ禍の大学生，想定外の1年」。

Nattapong Kitsuan（松浦基晴訳），2019「タイ・日本・欧州における文化・教育・労働環境の違い」『電子情報通信学会誌』102（9）：853-855頁。

日本学生支援機構，2021「2019（令和元）年度日本人学生留学状況調査結果」1-8頁。

週刊東京大学新聞，2020/4/21「留学プログラム中止に，新型コロナ影響で」第2923号。

鈴木潤子，1995年「タイ公開大学の機能分析：学生のニーズ調査を通してみた」『比較教育学研究』第21号，61-71頁。

鈴木康郎，2005「タイにおける小学校英語教育の現状と課題」，中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語専門部会（第9回）参考資料4-4「タイにおける小学校英語教育の現状と課題」暫定版，1-29頁。

TPA，2001「泰日経済技術振興協会（TPA）付属語学学校タイ語留学一年コース2002年度募集要項」TPA。

TPA，2020『2020年度版泰日経済技術振興協会ガイドブック』TPA。

参考 Web

ADECCO「タイの大卒初任給」（タイ語）

（<https://adecco.co.th/th/knowledge-center/detail/salary-guide-2021>，最終閲覧日：2021年11月20日）

Gamgy Channel（タイ語）

（<https://www.youtube.com/watch?v=WX2XWjbDI9Q>，最終閲覧日：2021年11月20日）

チュラーロンコーン大学 HP「大学のアイデンティティ学生服，陛下より賜った制服」（タイ語）

（<https://www.chula.ac.th/about/symbols/uniform/>，最終閲覧日：2021年10月25日）

博報堂生活総合研究所アセアン「コラム『メディアイノベーション調査2019』からみる日本と各国の比較3 後編：博報堂生活総研アセアン Dee さん，伊藤さんと考える，日本とタイの比較」

（https://www.hakuhodody-media.co.jp/column_topics/column/media_environment/20191108_26864.html，最終閲覧日：2021年11月23日）

KADVO ホームページ

(https://kadvo.com/report/1_03.html, 最終閲覧日: 2021 年 10 月 26 日)

神田外語大学 HP「大学生活」(<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/essay/7729/>, 最終閲覧日: 2021 年 11 月 23 日)

MenuinThai「タイのマクドナルド商品の価格」(タイ語)

(<https://www.menuinThai.com/mcdonalds-price/>, 最終閲覧日: 2021 年 11 月 20 日)

NHK News Web (2021/9/21)「学生の海外留学 約 1 年半ぶりに本格再開 近畿大学

(<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210921/k10013270631000.html>, 最終閲覧日: 2021 年 10 月 24 日)

日本マクドナルド社 HP「日本のマクドナルド商品の価格」

(<https://www.mcdonalds.co.jp/menu/side/>, 最終閲覧日: 2021 年 11 月 20 日)

Royal Project Foundation Web ページ

<https://www.royalprojectthailand.com/product/> (最終閲覧日: 2021 年 11 月 16 日)

ParttimePantip「タイのセブンイレブンの給料」(タイ語)

(<http://www.parttimepantip.com/7-11/>, 最終閲覧日: 2021 年 11 月 15 日)

タイ高等教育・科学研究・イノベーション省「大学」(タイ語)

(<http://www.mua.go.th/university-2.html>, 最終閲覧日: 2021 年 11 月 26 日)

タイ高等教育・科学研究・イノベーション省「高等教育政策」(タイ語)

(http://www.bpp.mua.go.th/main/download/other/HiEduSum_0458.pdf, 最終閲覧日: 2021 年 11 月 26 日)